

HPV Infection in Squamous Cell Carcinoma of the Hypopharynx, Larynx, and Oropharynx With Multisite Involvement

久我, 亮介

<https://hdl.handle.net/2324/7182343>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



(別紙様式 2)

氏 名	久我 亮介
論 文 名	HPV Infection in Squamous Cell Carcinoma of the Hypopharynx, Larynx, and Oropharynx With Multisite Involvement
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 加藤 聖子 副 査 九州大学 教授 相島 慎一 副 査 九州大学 教授 馬場 英司

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

中咽頭扁平上皮癌（OPSCC）における高リスクヒトパピローマウイルス（HR-HPV）の有病率と予後の意義は十分に確立されているが、下咽頭SCC（HPSCC）や喉頭SCC（LSCC）では確立されていない。さらに、多部位に病変が広がるSCCにおけるHR-HPV感染についても検討されていない。申請者らはこれらの問題を明らかにするために、467名のHPSCC、LSCC、またはOPSCC患者から480腫瘍（病変）の浸潤性腫瘍を後方視的に収集し、詳細な腫瘍の局在、mRNA in situ hybridization（ISH）による転写活性の高いHR-HPV感染、およびp16とRbの免疫組織化学的染色を総合的に解析した。

HR-HPV感染は115/480腫瘍（24%）で観察された。HPV陽性症例はp16陽性およびRb部分欠損パターンと密接に関連していた。HR-HPVは、pure-type OPSCC群では104/161例（64.6%）で検出され、pure-type HP/LSCC群では1/253例（0.4%）のみであった。多部位に浸潤するcombined-type SCC群では、10/40例（25%）にHPV感染が認められ、HPV陽性10例はOPSCCが喉頭または下咽頭に進展していた。High T-stage（T3/4）のpure-type OPSCC症例では、HPV陽性症例は予後が良好であった（ $P=0.0144$ ）が、HPV陽性のcombined-type OPSCC症例では、HPV陰性症例と比較して予後に有意差を示さなかった（ $P=0.9428$ ）。

この結果は、pure-type HPSCCおよびLSCCにおけるHR-HPV感染は極めてまれであることを示唆している。HR-HPV感染は、中咽頭と下咽頭/喉頭に広くまたがるSCC症例においてかなりの割合で認められるようであるが、このような進行した病期では予後を改善しない可能性がある。これらの点に関して、より大規模集団を対象にした今後の研究が待たれる。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。